

## 自動走行車による解決可能な行政課題について

- 実証エリアにおいて、自動走行車を活用することにより解決できる行政課題についてご記入ください。
- 交通不便地対策、高齢者対策など複数テーマがある場合は、それぞれご記入ください。

市町村名 設楽町

テーマ 町内移動手段の再編と過疎地域における移動手段の確保

### ○交通不便対策・高齢者対策

当町は、愛知県の北東部に位置し平成17年に設楽町と津具村が合併し県内でも5番目に大きな面積を有する自治体となったが、集落は小規模で点在し、さらに高齢化（高齢化率は46%を超える）しているため、交通弱者においては、移動手段が限られている現状があります。

そこで、町では、平成21年に北設楽郡公共交通活性化協議会を設置し、バスを基軸にタクシー事業者と連携した市町村福祉輸送や過疎地有償運送（設楽町が個別輸送を確保するために行っている事業費H28 予算約900万円）などを組み合わせた「おでかけ北設交通システム」を創り移動手段の確保を行っているが、予算に限りもあることから運行本数が極めて少なく気軽なおでかけ手段の確保ができていない状況です。

さらに、住民（高齢者の移動ニーズ）は、数年前と比較すると、新たに高齢者となった方は免許や車を保有しているため、移動サービスに対する需要は低いが、高齢だった方は、より高齢化し、乗合から個別輸送への転換が必要となっているため、新しい移動手段の確保を検討する時期になっています。

今回の自動走行の実証実験はその方策の一つとして期待しています。

今回の実証実験ルートとして提案させていただいたコースは、

- ① 基幹バス路線を外れ、予約制によるバス運行エリアであるが、バス車両数の関係で、予約バスの運行エリアというだけで、実際にはバスを使いにくい地域であること
- ② 設楽町の中心地である田口地区（役場駐車場）と老人福祉施設を結ぶことで、買い物利便性や福祉サービス利便性について検証をすることができると考えること  
（なお、福祉施設は民間施設であるが、実証実験車両用の駐車や施設職員に対する聞き取り調査について協力を依頼済みである。）

ということで、提案させていただきました。

## 自動走行車の実験走行ルートについて（複数ルート提示も可）

## 1 区間（出発地点→到着地点）

設楽町役場ー荒尾ルート

## 2 地理条件（バスルートの有無、地域の状況を記入）

- ① 終点には、役場、金融機関、診療所など設楽町の拠点となっている。
- ② 交通量は少ない
- ③ 走行ルートの一部をおでかけ北設バス「東栄設楽線」（設楽町、東栄町が運行＝全額委託）、予約バス、全域を市町村福祉輸送（町が実施）により移動手段の確保を図っている。  
→権利関係ははっきりしている。

## 3 道路条件（参考の「2 道路条件」について記入）

- ① 走行距離約 5 km
- ② 白線あり
- ③ 片側 1 車線以上あり
- ④ 人通りはほとんどない
- ⑤ 他からの流入は少ない
- ⑥ トンネルはない

## 4 その他（参考の「3 その他」について記入）

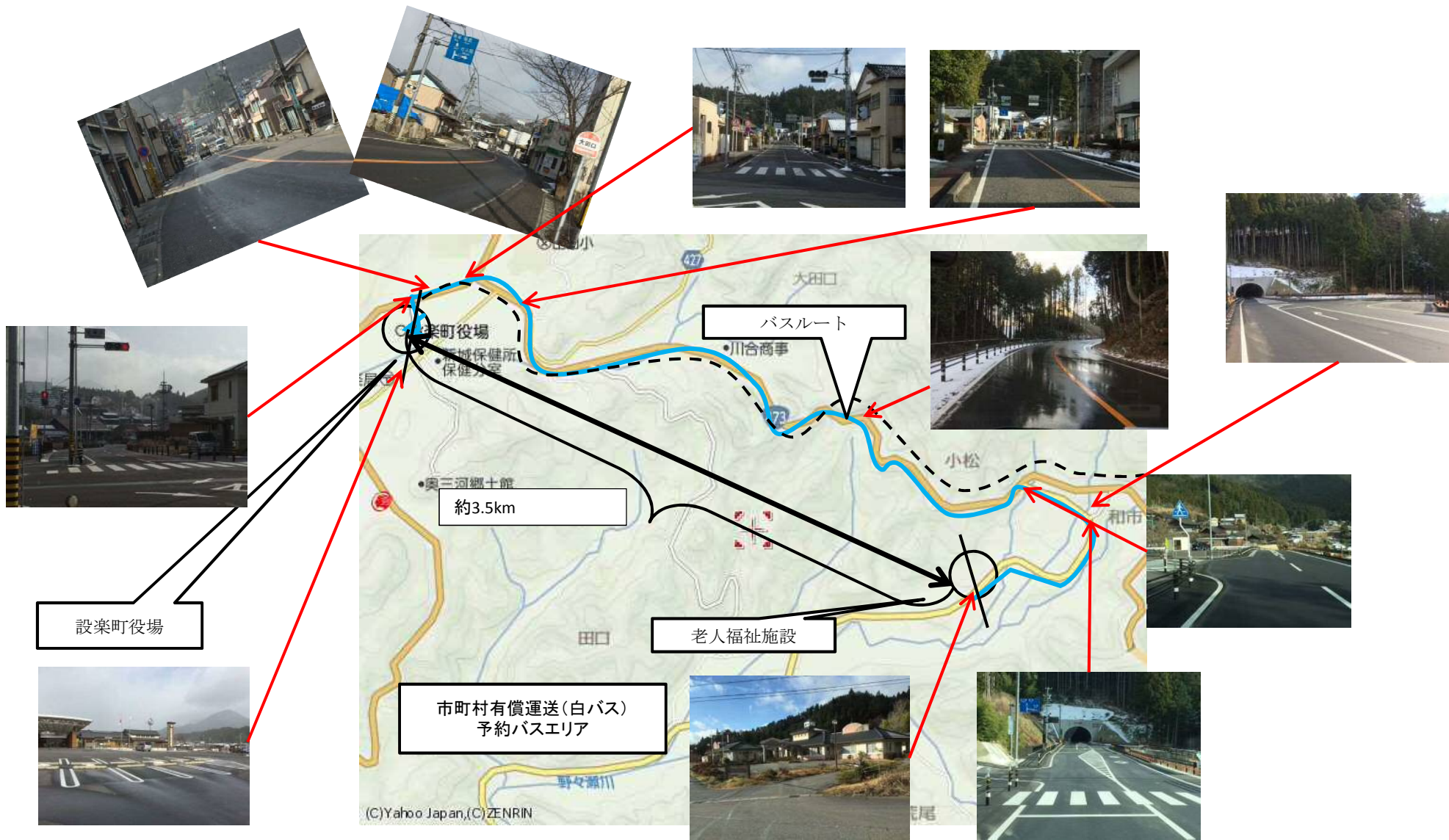
- ① 関係者との調整
- ② 実験車両は役場駐車場に駐車可

## 5 走行ルート（地図）

（例示）下の図は消して、作成してください。  
別紙のとおり

## 6 写真（下記のを添付してください。Google ストリートビューも可）

- (1) 実験車両待機場所
- (2) 道路の様子（1～2カ所）
- (3) 出発地、到着地（スーパー、病院など）



候補地 設楽町役場－荒尾ルート